

平成 27 年 4 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

4 月は、食料品、一般機器、輸送機器、商店街、サービス業の一部で売上が増加している。特に水産食料品製造業の一部と旅館業ではNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の影響で売上が伸びたとの報告である。また、依然として繊維工業、輸送機器、建設業の人手不足・技能者不足は続いている。

一方で、繊維工業、木材・木製品、印刷、窯業・土石製品、卸売業、小売業、建設業の一部では売上減少の報告であり、材料費の値上りや消費税増税の影響を訴える企業もある。こうした中、「プレミアム商品券」による消費の底上げに期待する声が多い。

山口県の主要指標 DI 値（平成 27 年 4 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）

前年同月比は、好転：10.0% 悪化：28.8% DI 値：▲18.8% ポイント

売上高（〈 増加 〉 - 〈 減少 〉 = 〈 DI 値 〉）

前年同月比は、増加：16.3% 減少：35.0% DI 値：▲18.7% ポイント

収益状況（〈 好転 〉 - 〈 悪化 〉 = 〈 DI 値 〉）

前年同月比は、好転：10.0% 悪化：27.5% DI 値：▲17.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 27 年 4 月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	▲25.0	▲66.7	▲100	▲33.3	33.3	0.0	▲24.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
20.0	▲22.2	▲100.0	▲8.3	▲10.0	0.0	▲14.9
						

全体
▲18.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	入学・入園記念品の注文数は例年並み。予算がある記念品等には原材料の値上げ分を価格に反映しにくく、収益が悪化している。	パン・菓子製造業
	3月は+14%と前年同月を大幅にクリア。H26年度では+14.3%で総売上は11億円を突破、経常利益も大幅増加。国交省による全国モデル道の駅認定とNHK大河ドラマの効果もあり、4月は4/24現在で前年同月比+10%程度と依然好調。6/14（日）NHK総合TV「サキどり」に登場予定ほか、全国メディアでの露出が続く。	水産食料品製造業 萩市
	販売量の減少が続いており厳しい。業界によっては景気の回復の話も聞くが、小売業はマイナスとなっているのではないかとと思われる。	水産食料品製造業 下関市
	季節はずれの長雨の影響で、作物の生育状況が遅れ気味となっている。また、米あまりの中で、TPP農業交渉による米の輸入自由化の報道により、米の取引価格の低下についても、回復するような傾向ではなく、このままでは、米の生産の継続ができなくなる生産者が増えることが引き続き懸念されている。	精穀・製粉業
繊維工業	以前にも増して経営の厳しい組合員があり、資金繰りに苦慮している。外国人技能実習生の受け入れでは、中国人の募集が困難になり、今年からベトナム人の受け入れを開始。	下着類製造業
	消費は低迷したまま回復を見せていない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	仕事はそこそこあるが、人材不足で苦慮している。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工数は、ほぼ前年並みに回復してきたので、丸太の生産量が増えて流通しはじめ、価格がやや下落傾向にある。	製材業・木製品製造業 山口市
	公共事業は前年同月と同じ程度の量である。民間事業は駆け込み需要の消化分が残っていた前年と比べると、ガクッと落ちている。雨が続き天候が悪かった昨年6月以降の仕事量が減った状況から回復できていない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	全体的な景気は上向き傾向にあるが、印刷業界は、3月に島根県で2番目の規模の印刷会社が倒産、4月に入って山口市でも倒産が出ている。スマフォ広告市場が1兆円を超え、ネット広告市場が3兆円を超えたこともあり、紙での情報伝達は縮小されてい	印刷 下関市

	る。	
	月初に同業者の倒産があり、また、印刷事業の縮小を宣言される業者も出てきて、業界もいよいよ、方向転換を強いられる局面を迎えている。	印刷 山口市
窯業・ 土石製品	前年同月比で出荷数量は激減している。砕石工場も骨材が取れなくなった工場もあり、組合としても更に厳しい状況となってきた。災害復旧工事もほぼ完了し、今後入札件数が減ると予想される。	砕石製造業
	出荷量は、前月比100%、前年同月比95%。平成26年度出荷は、対前年度比98%で、わずかに減少している。平成27年度の見通しは対前年度比で約91%と厳しい見通しとなっている。現時点はセメント・骨材等の資材調達で特に問題は生じておらず、生コン価格は安定している。	生コンクリート製造業
	地域性はあるが、新規の仕事の依頼より移転やリフォーム、特に撤去の依頼が増えたように感じる。少子高齢化の影響を受けやすい業界なので、新規顧客の開拓をどのようにするかが課題である。	石工品製造業
一般機器	4月の景況は3月と同様で概ね順調。プラント関連は、マレーシア、ベトナムの受注が回復したので、前年より利益が上回っている。自動車関連は新年度に入って間もないので、今後に期待している。4月末、ガソリンの価格が上昇しており、コストへの影響を懸念している。	一般機械器具製造業 防府市
	従来からの機械製造関係、食品加工、スーパー等に加え、農業、食肉加工業からも人手不足から、外国人技能実習生の受け入れや増員の相談がある。一方、円安に伴い実習生の実質の手取りが目減りしているため、かなりの賃金アップをしないと、中国はもちろん、ベトナムでも実習生の募集に支障を来す事態となっている。そのため、時間給から月給への移行を進めており、企業の負担は今後とも増加するであろう。	一般機械器具製造業 宇部市
	前月と同等で推移。売上が微増している。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型の生産設備操業度は2月～3月に比べやや落ち着いた。平面研削盤の故障で研削工程が遅れ負荷が多かったが何とか復旧。しかし何時故障が起きるか不安な状況で新規導入のため補助金制度の追加に期待している。5月以降の生産状況は、稼働日数が少ない分4月と同等と予測している。今から6月、7月分の受注活動を進める予定。成形製品の生産は自動車関係が長期休暇の影響もあり稼働日数が少ない分、売上、稼働率とも低調であった。販売コスト削	特殊産業用機械製造業

	減を客先から要求され続けているなか、稼働効率を高め、ロスの低減、不良品撲滅に努める等、より一層の努力を継続していく必要がある。	
輸送機器	鉄道車両、精密加工部門とも、前年同月並みを維持しており、まずまずの生産高で推移している。車両部門は6月以降生産増加が見込まれる。精密加工は現状の水準を維持し安定した業績が続き、製缶プラント部門は小幅な落ち込みにとどまると見られている。	鉄道車両・同部品製造業
	人材不足が続いている。	船舶製造・修理業
卸売業	材料費の高騰による値上がりが収益に影響。	各種商品卸売業
	4月に入っても海苔の価格が高騰しており、全く購入できない状況が続いている。需要が落ち込んでおり、今年度も厳しいスタートとなった。6月からのイリコの入札に期待したい。	乾物卸売業
	注文が多く景気が戻ってきていると思われるが、天候不順のため魚が品薄で対応出来ず困っている。“ふく”も相変わらず品薄のため高値。	生鮮・魚介卸売業
小売業	3月決算のところが多く、4月に入り落ち着きを見せている。業界は経営者の高齢化と後継者不足で店舗数が減少しており、組合員の総会参加者数も減少している。組合活動もメーカーと協力して盛り上げる努力が必要な様子である。	化粧品小売業
	組合員事業所は小売業者が多く、4月の商戦に特段の変化はなかった。商店街は地区人口が徐々に減少しており共働き世帯も多く、交通弱者の高齢者の購買に頼っているところが大である。7月4日（土）より岩国市内で発売される2割お得のプレミアム商品券に、一過性かもしれないが期待している。地区内の中小企業者の動向は、建設業の職人も高齢化しており人手不足感がある。また、職人の養成も今後の課題である。倒産の話聞かないので地区経済は徐々に良くなって来ているようだが、地区事業者への波及効果はまだ薄い模様。福祉関連は、看護師やヘルパーなど職員の確保に苦勞している施設が多くなっている。これが賃金の上昇につながっており他業種にも波及してきている。	各種商品小売業 岩国市
	周南市の委託事業として平成26年3月から開設されたピピ510内の「ピピコ199」子どもの遊び場は継続営業が決定した。	各種商品小売業 周南市
	4/23日時点で、前年同月比+27%となり、前々年比でも+6%で推移。但し、中心商店街の売上は、詳細は不明だが減少している様子である。	各種商品小売業 山口市

	平成26年度は消費税増税に伴い売上、客数共に前年をかなり下回る厳しい経営状況となった。今月は、既存店ベースの昨年対比で、昨年の消費税増税開始時より売上、客数は上回っているが、SC全体では昨年の退店が影響し、売上、客数共に前年を下る状況。	各種商品小売業 長門市
商店街	消費税増税後、回復基調は見られず、各店舗〈業種〉とも売り上げの確保に苦労している状況が続いている。売上の確保が出来ないと在庫は増え収益は悪化する。気候も良くなり、商店街への、お客様の流れを期待すると同時に6月からのプレミアム商品券に期待する。	山口市
	季節に関係のある業種では、一時的に売上が少し上がっている。国の施策であるプレミアム商品券の関係もある。商品券の販売所が商店街アーケード内でもあるため、何年か振りに買い物に来たという客もいる。組合員からは「地方には今回のような地域活性化のための施策をこれからも望む」との声がある。	萩市
サービス業	4月に入り色々な行事があるので、美容室に出向いてくれる人が多く、少し活気が出てきたように感じられる。他の業界もPR作戦で個別に電話等を入れて、営業する業者が増えてきている。	美容業
	景気回復を期待している。	理容業
	県内の自動車整備工場数が緩やかではあるが減少している。平成26年度廃業は17工場あり、新規開設は11工場であった。ピーク時の平成19年度は1,194工場あったが、平成26年度末は1,162工場となった。	自動車整備業
	新年度に入り落ち着いた滑り出し。昨年の同時期に比べればよい。	
	会員数がこれから増加していく時期だが、少子化の影響はある。	スポーツ・健康教授業
	宿泊人員及び売上高とも対前年で10%伸びている。「花燃ゆ」の影響かどうかは5月の結果を見ないと判断できない。	旅館業 山口市
	4月は、地元宴会等の動きも良く、NHK大河ドラマ“花燃ゆ”効果もあって観光客が増加傾向で前年同月の売上げを超えている。ビジネスホテルなども客室稼働率・室単価など概ね好調であった。関東方面のお客様が増え、客単価も上がってきている。お客様の購買意欲は上がってきている。全体に明るい話題が多く、「気候の良い5月に期待をしている」との声が多い。	旅館業 下関市

	今年度は収益部門の事業内容の変更があり、売上高は大幅な減額となった。これにより人件費等の経費削減をし、営業利益は若干の増額となった。業界の景気動向は前年より悪化していると思われる。	旅館業 長門市
	来店客数、お客様売上単価に上昇傾向はみられない。仕入については、全品上昇傾向。地方の飲食業は、自らの存立のため、技量・エリア等の「基盤」と「コスト」を見直し、事業の再構築が必要である。	飲食業
	前年に比べ石油価格が下降しているため光熱費は抑えられているが洗剤や溶剤、包装資材などの石油製品の価格が上昇したままとなっている。前年は消費税増税前の駆け込み需要の反動もあって4月の売上が落ちたが、今年は通常と同等となった。月半ばの天候不順により、衣替えの需要が低下。	普通洗濯業
建設業	中電への工事申請は3月191件（当支部分165件）、前年同月353件（同309件）。太陽光発電への申請38件、オール電化申請48件（前年は太陽光105件、オール電化117件）。LED街路灯への切替・新設申請は41件（前年43件）であった。対前年申請件数の大幅な減少は消費税増税前の駆け込み需要が要因と思われる。	電気工事業
	米軍岩国基地以外は工事量が減少しているように思われるが、技能者の減少により人員の余剰感はない。	左官業
	山口県内の平成26年度請負金額の実績は、西日本建設業保証協会によると建築工事+26.6%、土木工事-0.7%。大手の請負が+13.4%で中小企業が-1.3%となっており、大手業者に工事が多く、中小企業向け工事が少ない状況。	土木工事業 柳井市
	前年度初めも地域公共工事の発注はなかったが、今年も同様。	土木工事業 周南市
	4月の受注高は対前年同月比で41%。	土木工事業 萩市
	前年の4月は消費税増税の駆け込み需要のうち年度を繰り越したものもあり、少し売上が増加していたが、今年の4月は年度初めであり工事が始まっていない上に、駆け込み需要もないため減少している。人手不足で採用をしたいが、4月～5月は発注が無いいため採用の検討も出来ない状況であるが、組合員各社とも雇用は確保している。	管工事業
運輸業	年度末の車両不足がウソのような4月であった。飲料用缶の使用材料が軽量化の材質へ徐々に変更され輸送重量が軽量化のため積載量が増加し、車両不足もほぼ解消されてきた。しかし燃料費が3.26円値上がり、中小輸送業者の経営を圧迫している。	一般貨物自動車運送業 下松市

<p>4月の荷動きは荷主でまちまちであるが、自動車関連は減少し、その他は増加している。保管庫の稼働は輸入部品の増加で順調に推移している。燃料費が下がっており好材料となっている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
<p>3月末に多くの企業が決算を終え、その反動で荷動きが悪くなっている。しかしながら農薬などといった季節物の荷動きがあるため、何とか車両を動かしている状況である。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
<p>4月に入り東北・北陸方の仕事はあるが、天候が悪いためキャンセルするケースが多く、燃料代が下がっているチャンスも活かせなかった。ETCの売上は3月より多かったが、仕事が少ない感じであり、全体的に景気は戻ってきていない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込）は、前年比+1.3%（平成27年3月1日～平成27年4月20日分）。平成27年3月1日～31日分は+2.6%、平成27年4月1日～20日分は▲0.7%となった。税込み金額の為、3月分も実収入は減少している。4月分は前年並みと予想している。3月分は、周南市と防府市地区が減少したが、下松市、光市は増加している。主要燃料のLPGは、CP（通告価格）と為替に連動するが、為替は円安ではあるが、ブタン、プロパンのCPは前月分よりも若干下降し、購入単価は先月と同額で、高騰していた前年4月分に比べ25%安価となった。昨年4月は運賃改定で料金メーターの改造作業費用が必要だったが、今年度はそれも無いので、一時的に収益が良く見える。売上の減少に比例して乗務員の収入も減少し乗務員確保がたいへん難しく、稼働台数も減少している。まだまだ地方の個人消費は、厳しい状況が続いているように思われる。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
<p>売上高と業界の景況は共に不変にしているが、ここ数か月、対前年度から見ると、若干減少傾向にある。</p>	<p>港湾運送業</p>